

愛知医科大学における 図書館・アーカイブズ連携の試み

山口拓史¹⁾，西村飛俊²⁾，小林晴子³⁾，市川美智子⁴⁾

1) 愛知医科大学アーカイブズ，2) 一宮市立中央図書館，
3),4) 愛知医科大学医学情報センター（図書館）

図書館；アーカイブズ；機能連携；OPAC；シームレス

《概要》

愛知医科大学（以下、本学という。）には医学情報センター（図書館）とアーカイブズが併置されている。大規模な総合大学ではない医療系大学の本学は、両者の機能的連携を図るための一方策としてOPAC活用によるシームレス志向型検索システム運用を試行中である。本口演発表では、本学の事例を主にアーカイブズ側の視点から紹介する。

《背景》

- ① 創立30周年記念として『愛知医科大学三十年史』（全3巻）を刊行[2008.3]。
- ② 30年史編纂資料群を保存・管理するためアーカイブズ施設を設置[2008.4]。
- ③ LA連携強化の一環としてアーカイブズを図書館内に移設[2012.7]。

《目的》

- ① 本学が保有する図書館資料とアーカイブズ資料を広く学内外に公開し、その利用・活用を促進する。
- ② ISBD準拠の図書館とISAD(G)(国際標準記録史料記述一般原則)準拠を模索するアーカイブズの両施設が、利用者にやさしいワンストップサービスを実現する方法を探る。

《中間結果》

- ① 運用実績のある図書館OPACをシームレス志向型の検索システムとして運用した。
- ② OPAC登録を可能にするために、アーカイブズ目録情報（採録項目）とOPACデータ入力エリアの双方の調整を行った。

《考察》

- ① 図書検索と同一方法によるアーカイブズ資料検索は、利用者の利便性向上とともに、アーカイブズ活動普及の側面からも望ましい。
- ② アーカイブズ固有のフォンド（同出所資料群）情報などを十分に表現できない。

《課題》

- ① OPAC上に多様なアーカイブズ資料をどのように登録・表現するのか。
- ② OPACシステムの可能性（先進性）をどこまでアーカイブズに適用できるか。